

きたかみ未来創造会議

創造NEWS 第15号

2010.2.24
第15回会議
指標の優先
順位と水準
を考えるの巻

今回は、前回から引き続き「目指すべき将来の姿をあらわす指標」の整理と「5年後、10年後の目指すべき値」の検討を行いました。

■第15回「きたかみ未来創造会議」の概要

今回は、前回までの議論をそれぞれの分野でさらに深めるため、「目指すべき将来の姿をあらわす指標」の優先順位と現状値がある指標に関しては、「5年後、10年後の目指すべき値」を分野内で共有することを目的に議論を進めました。

はじめに、政策企画課より、各分野で選ばれた指標について、県内自治体や北上市と類似する県外自治体との比較データの情報提供がありました。この資料は、各種指標に係る北上市の状況（経過推移）とともに、他市はどの位の状況（値）であるのか、また目指す水準はどのような値になればよいかを検討する上で参考になるものです。

その後、グループワークでは、まず前回検討した「指標」について、目指すべき将来の姿をあらわす上で、「ふさわしい」「大切だ」と考える指標を再検証し、優先順位3つを選定しました。

優先順位が確定した分野では、現状値がある指標に対し、提示された資料も参考として、5年後、10年後がどのようになっているか、検討を行いました。

さらに、市民と共有する指標づくりを目指し、設定された指標の目指す水準について、「なぜ、その値にするのか」その理由（考え方）について整理・検討を行いました。そこで、それぞれが考える目指すべき姿が分野内で共有され、目標水準の見直しにもつながりました。

次回は、今回議論しきれなかった部分をまとめるとともに、会議全体としても指標設定の共有化を図るため、全分野の発表を聞いたのち、それぞれの分野が交流する意見交換を行います。

次回も積極的なご参加をよろしくお願いいたします。

<次回案内>

- 日時：3月18日（木曜日）18：30～
- 場所：北上市役所5階会議室

※場所が変更します。ご注意ください。

※当日は、地下の夜間受付から庁内にお入りください。

※次回、新年度の日程もお知らせいたします。



他市のデータに関する情報提供



指標の検討（基盤整備）



目指すべき値の検討（保健福祉）



水準設定の理由検討（産業雇用）

<それぞれの目指すべき将来の姿に対しての想定される指標>

※指標は左から、第1優先、第2優先、第3優先、補助指標 を記入している。

※現状値がわかるものについては、現→現在地、⑤→5年後の目指すべき値、⑩→10年後の目指すべき値

分野：保健福祉

目指すべき将来の姿（具体的に実現したいあるべきまちの将来像）

A1 出産に対しての不安がやわらぎ、だれもが安心して産むことができる

妊婦検診率 （ほ105）	周産期死亡率 （ほ4）	産前産後の出産休暇出産に伴う、男性が育児休暇を取る割合（ほ15）	出生率の向上 （ほ1）
現：88.6% ⑤：95% ⑩：99%	現：1.1 ⑤：0.8 ⑩：0.5	現：0.8% ⑤：5% ⑩：10%	

A2 育児に対しての精神的、経済的不安が少なく、親と子供達が健康に暮らせる

育児世代の両親で、育児環境が整備され、安心して子育てが出来たと感じる割合	育児休暇利用率 （ほ14）	子育てサークルの利用者数	乳幼児の死亡率の減少 （ほ6）
	現：32.8% ⑤：50% ⑩：80%		現：1.1 ⑤：0.8 ⑩：0.5

A3 働きながら子育てしやすい保育環境が整い、だれもが安心して子供を育てられる

保育園の待機児童数 （ほ13）	放課後児童クラブ入所者数（ほ22）	男性が育児休暇を取る割合（ほ15）	育児に対して不安を持つ人の割合
現：68 ⑤：0 ⑩：0	現：1147 ⑤：1147 ⑩：1147	現：0.8% ⑤：5.0% ⑩：10.0%	

A4 育児相談が気楽にできる環境が整い、地域とともに責任をもって子どもを育てられる

地域子育て支援センター利用者数 （ほ100）	子育て相談できる人がいると感じる割合 （ほ28）	育児環境への満足度 （ほ8）	
現：24,240 ⑤：24,240 ⑩：24,240	現：91.4 ⑤：95.0 ⑩：95.0	現：3.5% ⑤：4.0% ⑩：5.0%	

A5 年をとっても、障がいがあっても必要に応じて支援や福祉サービスを受けられる

高齢者のボランティア活動、地域活動への参加率（ほ40）	障がい者支援施設、団体の利用者数 （ほ106、107）	専門的資格をもって携わる人の数	
現：26.98 ⑤：30.0 ⑩：40.0	現：45.9、68.0人 ⑤：50.0、70.0人 ⑩：60.0、80.0人		

A6 高齢者が身体的、精神的に健康で安心した生活を送り続けることができる

高齢者のボランティア活動、地域活動への参加率（ほ40）	生きがいを持っている高齢者の割合 （ほ41）	高齢者雇用率 （ほ42）	
現：26.98 ⑤：30.0 ⑩：40.0	現：90.1 ⑤：90.0 ⑩：90.0	現：16.0 ⑤：20.0 ⑩：25.0	

A7 障がい者が自立した生活を実現できる環境がある

障がい者雇用率 （ほ47）	福祉施設から一般就労への移行数（ほ52）	授産施設利用者数 （ほ49）	
現：1.38% ⑤：3% ⑩：5%	現：7 ⑤：7 ⑩：5	現：167 ⑤：200 ⑩：220	

A8

--	--	--	--

A9 積極的な健康づくりと疾病予防によって市民が充実した暮らしを送ることができる

1人あたりの医療費 (ほ59)	特定検診受診率 (ほ61)	生活習慣病罹患率	
現：276,091 ⑤：250,000 ⑩：220,000	現：41.3 ⑤：市の指標に ⑩：合わせる		

A10 かかり医制度の充実と医療機関の開かれた連携によって、情報提供システムができ適切な医療サービスを受けられる

開業医と総合病院の連携の充実が感じられる割合	人口あたりの医師、歯科医師数(ほ101)	救急車平均搬送時間(ほ70)	医療サービスへの満足度、医師、歯科医の数が充実してきた
	現：202.3人/ ⑤：210/ ⑩：220/10万人	現：32.5分 ⑤：31分 ⑩：30分	

A11 病院や地域でのリハビリテーションが充実している

介助ボランティア数	リハビリ専門医の増加	障がい者や高齢者を持つ家族の中で、身近に相談できる人	

A12 地域で、互いに支え合い知恵を出し合って、誰もが安心して暮らせる

この地域に住んで良かったと思う人の割合	人口当たりの自殺率(ほ83)	乳幼児、児童虐待件数(ほ10)	
	現：37人 ⑤：20人 ⑩：10人/10万人 半減していく	現：53件 ⑤：25件 ⑩：0件 半減していく	

A13 身体的・社会的・経済的などあらゆる不安や困難に陥ったときに安心して話せる

不安に陥った時に相談できる場所があると感じる人の割合	民生委員の相談指導件数(ほ103)	福祉協力員への相談件数(ほ104)	見守り活動を行っている人の数、地域での福祉活動への参加者数
	現：8,994 ⑤：8,000 ⑩：7,500	現：108,933回 ⑤：115,000回 ⑩：115,000回	

A14

--	--	--	--

<それぞれの目指すべき将来の姿に対しての想定される指標>

※指標は左から、第1優先、第2優先、第3優先、補助指標 を記入している。

※現状値がわかるものについては、現→現在地、⑤→5年後の目指すべき値、⑩→10年後の目指すべき値

<それぞれの目指すべき将来の姿に対しての想定される指標>

分野：教育文化

目指すべき将来の姿（具体的に実現したいあるべきまちの将来像）

B1 特色ある教育の実践と進学への支援により、優秀な人材が生まれている

標準学力検査及び学習定着度状況調査における正答率の上昇（⑤3）	中学生の中で学びたいことがある子どもの割合	学校が楽しいと感じる児童、生徒の割合（小学生、中学生）	
現：111/98 ⑤：115/100 ⑩：120/105 ・1年1%を目指す			

B2 地域・家庭の連携により、子どもたちが生き生きと生きる力を育む学習環境が整っている

子どもの教育について学校、家庭、地域の連携が十分だと思える割合	地域の人で学校教育に関わった人の数（市民全般の中で）	児童生徒のボランティア参加者数	

B3 高等教育機関が創設されていることによって、より教育内容が豊かになっている

創設された高等教育機関の数	就職率（⑤1）	中途退学率（⑤110）	
		現：0.99 ⑤：0.5 ・0が望ましい 毎年0.1%減	

B4〇

--	--	--	--

B5 より多くの市民が自ら質の高い生涯学習の機会を創出することによって、より豊かな生活を送っている

市内生涯学習事業への登録者数と申し込み者数	生涯学習事業への参加者数（⑤16）	市民1人あたりの図書館からの図書貸出冊数（⑤102）	
	現：67,709 ⑤：80,000 ⑩：100,000 ・交流センターの休日開催を増して（講座数）	現：5.5 ⑤：6.0 ⑩：6.5 ・過去が増えていないので… 開館時間の延長を見込んで	

B6

--	--	--	--

B7 産官学が連携することによって、先端技術を取得できる教育環境がある

産学官連携における講座数（⑤22）	産学官連携における講座の職場からの受講者数（一般）（⑤23）		
現：26 ⑤：30 ⑩：40 ・職業の多様化、低成長	現：662 ⑤：800 ⑩：1,000 ・先端技術の必要性		

B8 誰もが健康や競技など、それぞれの目的にあったスポーツを、目的にあった指導により実践することができる

年齢型スポーツの機会数	定期的にスポーツを行っている人の割合	スポーツ環境に対して満足している人の割合	

B9

--	--	--	--

B10 守り育ててきた民俗芸能や文化財の価値を市民が理解し、次世代につなげることができる

30歳までの若者の中で、伝統芸能を継承しているグループに所属している人の割合	民族芸能と文化財に係る事業の数	民族芸能を発表する機会の数 (ぶ111)	
		現：32 ⑤：35 ⑩：35 ・各地区の主催も加味、現状の高い水準を維持	

B11 市民誰もがさまざまな文化活動に触れる環境が整い、地域の特性を生かした生活を送ることができる

芸術文化活動の総参加者数 (ぶ39)	教育文化施設の利用者数 (詩歌文学館、博物館など) (ぶ104)	芸術文化活動の数	
現：5,797 ⑤：8,000 ⑩：10,000 ・文化活動（生涯学習に伴う）	現：35,576 25,792 261,419 ⑤：36,000 26,000 300,000 ⑩：36,000 存続の問題検討 (建物・企画) 300,000		

B12 さまざまな国際文化に触れる環境が整い、多様な価値観を受容し、さまざまな文化と交流できる人材が育っている

学校教育に国際理解教育時限数 (単なる英語の授業や社会科教科書の学ぶ以外、人と人との交流)	国際交流ボランティア数 (ぶ44)	国際交流行事の数 (ぶ105)	
	現：178 ⑤：200 ⑩：230 ・交流人材を多くするため	現：7 ⑤：7 ⑩：7 ・現状維持	

B13

--	--	--	--

〈それぞれの目指すべき将来の姿に対する想定される指標〉

※指標は左から、第1優先、第2優先、第3優先、補助指標 を記入している。

※現状値がわかるものについては、現→現在地、⑤→5年後の目指すべき値、⑩→10年後の目指すべき値

分野：産業雇用

目指すべき将来の姿（具体的に実現したいあるべきまちの将来像）

C1 農業・商業・工業が特徴を活かした連携によって、多様な発展を続け、魅力がある職場が生まれ出されている

就職を希望する高校生（働こうとしている人）を対象に、魅力ある職場があると思う割合	農商工連携新規事業数	法人の数（さ107）	就業者数（さ24）
		現：2,402 ⑤：2,400 ⑩：2,400 数値→現状維持 ・先行が見えない ・景気がわからない ・起業家が多くなる反面、辞める人数多い	現：48,495 ⑤：48,750 ⑩：49,000 理想は現状維持 ・人口が同じでも年齢層にかかわらず雇用がある

C2

--	--	--	--

C3

--	--	--	--

C4 それぞれの商店が独自の発想と資源の組み合わせにより、魅力ある商店街をつくり出している

市内の商店街で主に買い物をする市民の割合（市民全体にアンケートをランダム的に）（さ20）	店舗数（事業所統計に基づく卸、小売、飲食、サービスの各業）（さ17）	中心市街地歩行者数（さ14）	
現：93.8% ⑤：95% ⑩：95% ・商店街を循環型バスの運行する ・政策により増加させられる	現：2,997 ⑤：2,950 ⑩：2,900 ・インターネット販売の増加 ・百貨店化 ・郊外型になっている	現：1,939 ⑤：2,000 ⑩：2,000 ・政策で商店・商店街をささえる仕組み	

C5 多様な産業構造が構築され、安定した産業・雇用形態が形成されている

有効求人倍率（さ3）	1人当たり分配所得額の向上（さ49）	市内経済成長率	就業者数（さ24）
現：0.33 ⑤：1.00 ⑩：1.10 ・目指すべき数値でなければならない ・努力しなければならない	現：2,785,235 ⑤：2,850,000 ⑩：3,000,000 ・物価が上がっていることを想定		現：48,495 ⑤：48,750 ⑩：49,000 理想は現状維持 ・人口が同じでも年齢層にかかわらず雇用がある

C6 様々な資源を活かした、通年型観光の仕組みが構築されている

年間観光客数（さ27）	観光宿泊者数（さ28）	観光客に間くりピーターの数	
現：1,629 ⑤：1,880 ⑩：2,000 ・北上をのばせる大きな観光	現：186 ⑤：200 ⑩：220 ・観光客が増えると宿泊者も増		

C7 地産地消の食糧循環サイクルが豊かになる・・・そうすることで具体的な指標が出る				
売上高、学校給食の地元産利用率 (さ9?)				
C8				
C9 市民が農業の大切さを理解し、地域全体で農業を支え、安心安全な食料が提供されている				
市内産の農産品を先で購入しようとする人の割合	地産地消率(学校給食) (さ9)	農業体験参加者数 (さ31)	農業産出額 (さ36)	
(市民全体にアンケートをランダム的にとる)	現: 26.1 ⑤: 30 ⑩: 35 ・地域全体で支える ・地域と学校の相互関係 ・顔が見える ・安心な	現: 135 ⑤: 160 ⑩: 200 ・農楽校の開催などを増やす ・農業体験、情報を増やす ・他市、農家以外の人がいる	現: 1,042 ⑤: 1,000 ⑩: 1,050(千万円) ・米が安くなっている ・米以外で伸ばす(10年ぐらいかかるだろう)	
C10 農業所得が向上し、新たな就農者が生まれ、安定的な農業経営ができる環境がある				
市内産の農産品を先で購入しようとする人の割合	新規就農者数 (さ39)	農家一戸当たり分配所得額の向上	農業産出額 (さ36)	
(市民全体にアンケートをランダム的にとる)	現: 46 ⑤: 50 ⑩: 60 ・潜在事業を引き出す ・行政で機会を与える ・農業がブームになっている ・東京などで説明会をする ・北上で農業する強みがある		現: 1,042 ⑤: 1,000 ⑩: 1,050 ・米が安くなっている ・米以外で伸ばす(10年ぐらいかかるだろう)	
C11				
C12 学びたい技術の教育が受けられる環境が整っている				
訓練・講座の受け入れ数 (さ43)	資格取得者数	受講者の就職率	技能検定合格者の延べ人数 (さ44)	ものづくり体験教室等 (さ50)
現: 423 ⑤: 500 ⑩: 600 受け入れ施設を運用するには行政・企業とも活用方法を協力し合う			現: 165 ⑤: 180 ⑩: 200 講座の受け入れ数も増えるため	現: 1,797 ⑤: 2,000 ⑩: 2,000 企業の意識変化
C13 産業分野で活躍できる人材が育成され活躍することによって、地元産業が発展している				
地元への就職率 (さ108)	ものづくり体験教室等ものづくり人材育成の受講者数 (さ50)	職業訓練施設の延べ訓練人数 (さ43)	コンピューターアカデミー就職率 (さ47)	
現: 43.3 ⑤: 45.0 ⑩: 50.0 働きたいと思う職場をつくっていく ・地元就職できる人	現: 425 ⑤: 400 ⑩: 400	現: 224 ⑤: 200 ⑩: 200	現: 86.4 ⑤: 83.0 ⑩: 80.3	

＜それぞれの目指すべき将来の姿に対しての想定される指標＞

※指標は左から、第1優先、第2優先、第3優先、補助指標 を記入している。

※現状値がわかるものについては、現→現在地、⑤→5年後の目指すべき値、⑩→10年後の目指すべき値

分野：生活環境

目指すべき将来の姿（具体的に実現したいあるべきまちの将来像）

D1 北上の自然を市民が共通の財産としてとらえ、それを次世代につなげることができる

小中学生のうち、緑などの自然環境などに満足している市民の割合	次世代につなげる取り組みを行っている人の割合	環境学習講座受講者数（せ3）	自然を大切にしたいと感じる人の割合
		現：753名 ⑤：930名 ⑩：950名 ・北上市の人口の1割が受講してもらう	

D2 里山・農村などの保全・整備によって、自然と共生を維持することができる

市民一人当たりの緑地面積（せ4）	耕作放棄地面積（せ109）	野生動植物種類（せ10）	水辺で生息している生物の種類
現：13.12㎡ ⑤：13.38㎡ ⑩：14.00㎡ 人口減少により自然的に増加する	現：306.051㎡ ⑤：306.051㎡ ⑩：300㎡ 高齢化と人口減少により減少させるのではなく5年後は現状維持。10年後は少し減らす。	現：4913 ⑤：4913 ⑩：4913 絶滅のおそれもあり、現状値を維持することが必要であるため。	

D3 自然破壊や人体に影響を与える公害を出さず住み良いまちとなっている

大気汚染物質に係る環境基準適合率（せ18）	環境保全協定締結事業所の協定基準遵守率（せ23）	騒音・悪臭等の状況に関する地区環境が良いと感じている市民の割合（せ100）	
現：100% ⑤：100% ⑩：100% 基準適合率 100%を維持する	現：95% ⑤：98% ⑩：100% 自然破壊をさせないために協定基準遵守率を高め、100%にする	現：58.2% ⑤：70% ⑩：80% 理想は100%にしたいけれど騒音・悪臭と感じている者もいれば生活のためにその状況をしなければならない人もいますので5年、10年後10%ずつのUPでいく	

D4 新エネルギーの導入などにより、CO₂の削減に向けた仕組みが構築されている

総二酸化炭素排出量	太陽光発電量（せ28）	低公害車導入台数（せ25）	家庭エコ電化製品の導入率
	現：181.6万kwh ⑤：300万kwh ⑩：600万kwh	現：360台 ⑤：500台 ⑩：1,000台 現状自動車登録台数 33,000台。そのうち1%が現在の低公害車台数 5年後1.5%に（500台）、10年後3%に引き上げる（1000台）	

D5

--	--	--	--

D6

--	--	--	--

D7 市民、企業、行政それぞれで3R(リサイクル・リユース・リデュース)などごみ減量のシステムが構築され、循環型の社会が形成されている			
リサイクル率 (せ32)	1人1日あたりのごみ排出量(せ31)	市民、企業、行政それぞれの取り組み割合	
現：23.5% ⑤：25.5% ⑩：27.5% 過去4年で2%の伸びですが、他市と比べてもリサイクル率は高く、急激に伸び率は期待できないと思われるので5年で2%ずつ上げていく。	現：806 ⑤：780 ⑩：600	(企業を対象に)	
D8 不法投棄がなく、ごみ分別のマナーが守られ、きれいなまちになっている			
不法投棄発生件数 (せ36)	ごみステーションから回収されないごみの量	清潔なまちであると感じている市民の割合(せ101)	
現：11 ⑤：8 ⑩：5	(件数)	現：64.5 ⑤：70 ⑩：80	
D9			
D10 地域・家庭・学校などが連携し交通事故のない市民誰もが安心して安全に住めるまちになっている			
交通事故発生件数死傷者数(せ63)	交通安全教室啓蒙活動への市民参加(せ65)	交通違反者数(せ66)	
現：235 ⑤：200 ⑩：150	現：12,734 ⑤：15,000 ⑩：17,000	現：4,532 ⑤：4,000 ⑩：3,500	
D11 地域・家庭・学校などさまざまな防犯体制の連携によって、犯罪のない市民誰もが安心して安全に住めるまちになっている			
犯罪件数(せ44)	青少年の犯罪補導件数(せ45-1、45-2)	市民を対象に、安心して住めると感じる人の割合(せ41)	
現：715 ⑤：500 ⑩：400	現：犯55 補674 ⑤：犯30 補500 ⑩：犯20 補300	現：72% ⑤：75% ⑩：80%	
D12 防災のための組織・連携構築と、災害に強い施設設備の充実によって市民の生活を守る			
自主防災組織活動率	耐震診断実施戸数(せ103)	耐震改修実施戸数(せ104)	
D13 市民が高い防犯・防災意識を持って、市民自らが生活を守ることのできる環境がある			
災害に強いまちづくりに対する市民満足度(せ105)	防災訓練参加者数(せ60)	救急救命の講習受講者数(せ108)	
現：3,722 ⑤：4 ⑩：5	現：140 ⑤：150 ⑩：150	現：4,528名 ⑤：4,500名 ⑩：4,500名 5年後に世帯1人が受講するというので4500名ずつ受講	
D14 地域で災害発生ポイントが共有され、安全な避難経路や避難施設が平時から理解されている			
高校生以上を対象に、避難経路や避難施設を理解している人の割合	避難所看板設置率(せ106)	土砂災害危険区域周知看板設置率(せ107)	常に防犯防災に対して、対策を行っている人の割合
	現：90% ⑤：95% ⑩：100%	現：50% ⑤：60% ⑩：70%	

＜それぞれの目指すべき将来の姿に対しての想定される指標＞

※指標は左から、第1優先、第2優先、第3優先、補助指標 を記入している。

※現状値がわかるものについては、現→現在地、⑤→5年後の目指すべき値、⑩→10年後の目指すべき値

分野：基盤整備

目指すべき将来の姿（具体的に実現したいあるべきまちの将来像）

E1 身体的・社会的などの背景が異なる全ての市民が不自由なく社会サービスを楽しむことができる

公共施設のバリアフリー整備施設数	公共施設の外国語案内数 (外国語だけでなく障がい者も)	市民の中で、市内を車で移動するときにスムーズにできていると思っ ている人の割合	追加(候補) 身障者用の駐車スペースがある店舗数	追加(候補) 車イスで入れる店舗数(飲食店)
市は調べてしかるべき!	市は調べてしかるべき!		・市は申請時だけでなく最終チェックも必要	・市は申請時だけでなく最終チェックも必要

E2 ひとにやさしく心地よく歩けるまちになっている

歩行者の中で、市内に歩きやすい道路環境があると感じる人の割合	歩道整備率(ば103)	通学路における歩道整備率	
	現:0.1365 ⑤:0.15 ⑩:0.20		

E3 生活と産業を支える安定した上水道サービスが継続的に行われている

水道法に定められた水質基準の達成率(ば12)	断水件数(断水事故、計画外のものを除く)(ば109)	水道水を飲料水として飲む人の割合	
現:100% ⑤:100% ⑩:100%	現:0% ⑤:0% ⑩:0%	現:? ⑤:90% ⑩:100%	

E4 下水機能の整備・利活用がされ、快適になっている

水洗化率(ば18)	下水道普及率(ば15)	汚水処理施設整備済み人口/全人口	
現:79.1% ⑤:100% ⑩:100%	現:60.4% ⑤:65% ⑩:70%		

E5

--	--	--	--

E6 交通拠点との効率的な道路の整備によって生活・産業を支える道路ネットワークが構築されている

交差点滞留時間(時間と場所を限定)	市道改良率(ば23)	市道舗装率(ば24)	
	現:56.9% ⑤:59.0% ⑩:61%	現:51.4% ⑤:60% ⑩:80%	

E7 効果的な除雪や道路補修により、安全な道路環境が構築されている

市民への除雪に対する意識啓発・PR数(ば111)	道路に対する苦情率	追加(候補) 道路標識が見えなくなったり、植え込みによる死角の数	追加(候補) 除雪により道路幅がどれだけ狭くなったか?率
現:2 ⑤:4 (区長だけでなく) ⑩:4 (理想は0)			

E8 高度情報網を使ったサービスによって、市民が生活機能の維持・充実している			
情報化によって便利だと感じている人の割合	高度情報サービス整備率(ば31)	電子行政サービス利用者数(ば32)	
(高度情報通信システムの確立に関するアンケートあり)	現: モバイル ?% 光 ?% ⑤: モバイル 100% 光 +10% 地デジ 100% ⑩: モバイル 100% 光 +10% 地デジ 100%	現: 167 (HP の DL サービス)、4 (電子予約・図書貸出)、10 (メール配信・独自 HP) 5: 300、50、100 ⑩: 600、150、200	
E9			
E10 持続可能な公共交通と地域での補完的交通により、市民誰もが快適に生活できる			
公共交通の利用のしやすさ(ば100)	公共交通利用者数(ば37)	通学、通院や買い物で不便を感じている人の割合	
現: 43.2% ⑤: 70% ⑩: 100%	現: 電車 3,730 人 バス 2,665 人 ⑤: 6,000 人、 5,000 人 ⑩: 8,000 人 7,000 人		
E11			
E12 自然と都市の調和の取れた計画的なまちづくりによって持続可能な都市構造になっている			
あなたはこれからも北上市に住み続けたいと思いますか?(ば102)	市民の公園に対する満足度	北上市の土地利用制限についてあなたはどうか考えますか(ば101)	
現: 87.2% ⑤: 90% ⑩: 95%	(お年寄りや子どもがいる方を対象に聞いてみる)		
E13 各地区と中心市街地が連携し、市民誰もが生活に必要なサービスを受けることができる			
公共交通の利用のしやすさ(ば100)	各地区から、中心市街地に気楽に簡便に行けると感じる割合	地域回遊歩行者や交通弱者等すべての利用者の安全な通行ができていると感じる割合	追加(候補) 買物・病院・交流の機会に満足しているか
現: 43.2% ⑤: 70% ⑩: 100%	(地区限定で聞いてみる)		
追加(候補) 主要施設までの移動時間	追加(候補) これからも北上市に住み続けたいと思いますか	追加(候補) コミュニティバスの延長距離	追加(候補) コミュニティバスの運行回数・利用者数
E14			

<それぞれの目指すべき将来の姿に対しての想定される指標>

※指標は左から、第1優先、第2優先、第3優先、補助指標 を記入している。

※現状値がわかるものについては、現→現在地、⑤→5年後の目指すべき値、⑩→10年後の目指すべき値

分野：推進体制

目指すべき将来の姿（具体的に実現したいあるべきまちの将来像）

F1 市民・企業・行政がそれぞれの自治における役割を理解しそれを果たすことができる
各セクター・自治

セクターごとの自治活動数	自治における市民の役割を理解している人の割合		
・各NPO、市民団体へ活動者数アンケート ・商工会議所から企業へアンケート	・まちづくり協働推進条例における「市民等の役割」の理解者数を把握するアンケート		

F2 全ての世代がまちづくりを自主的に関わっており、より満足感のある社会になっている
各セクター・自治

まちづくりへの参加者数	住んでいる地域に愛着を持っている人の割合	現在の市民参画のあり方に満足をしている人の割合	
・市政座談会の参加数	・意識調査の満足度	・活動センター利用者数 ・活動褒賞における情報提供数	

F3

--	--	--	--

F4 それぞれが特色を活かした地域づくり活動が実践され、誇りと愛着をもった人・地域が形成されている
地域づくり
F4、F5の下線部同じ？

地域づくり活動参加者数、地域づくり活動数（す13、14）	住んでいる地域に愛着を持っている人の割合	自分の生まれ育った地域に住み続けたいと思う人の割合	
・市内16自治が行う地域づくり事業参加率 ・座談会の参加数 ・各地域づくり活動数アンケート			

F5 活発な地域活動に行われており、生活機能が維持されている
地域づくり

自分の生まれ育った地域に住み続けたいと思う人の割合	地域づくり活動数（す13）	40歳未満の市民活動への参加率	
・地域が主体となつて行う分の地域計画の進捗率			

F6

--	--	--	--

F7 市民・企業・行政がそれぞれの立場を理解し、責任と役割のもとに、互いの長所を活かした協働ができる（協働）

協働事業数（す24）	協働を行うことができる市民・企業・行政活動団体数	積極的な協働が北上にあると感じている人の割合	
・褒賞における市民と企業の協働数	・市民満足度調査「市民と行政の協働体制」の満足度		

F8 市民と企業との協働があり、多様なサービスがうけられている			
市民企業による公的サービスが充実していると感じている人の割合	公共サービスのへの参入、企業団体数	積極的な協働が北上にあると感じている人の割合	
・市民満足度調査の「市民と行政の協働体制づくり」の満足度、市民満足度調査の「行政サービスの向上」の満足度2つで評価。両方上向きでOK。	・市民満足度調査の「市民と行政の協働体制づくり」の満足度、市民満足度調査の「行政サービスの向上」の満足度2つで評価。両方上向きでOK。 ・指定管理者による施設管理数		
F9			
F10			
F11			
F12 みんなで情報を共有し、一緒に話し合える場があり、市民・企業が共感をもつ行政サービスが実現出来ている			
市民参画による政策評価実施（す29）	行政サービスへの満足度（す31）	情報開示請求数（す28）	
		・市民満足度調査の「行政サービスの改善」の満足度 ・市民満足度調査の「透明性の高い行政情報の提供」の満足度 ・市民参画評価数 できれば3つで1つ	
F13 施策優先度と市民ニーズが整理され、公共サービスを継続的に提供できる財政基盤が構築されている 公的サービス			
会計単位、連結全体での起債残高（す38）	1. 税金が有効に使われていると思う人の割合	2. 経常収支比率（す40）	
	1. VFM で費用対効果をはめる。VFM1以上のものの割合。	2. 将来負比率。	
F14			
F15 国・県・他市町村と効率的な役割分担の仕組みが構築されており、効果的な公共サービスが実現している			
国県市の役割について異なる立場の主体が話し合った数	この1年で縦割り行政の弊害を感じたことのある市職員の割合	この1年で縦割り行政の不都合を感じたことのある市民の割合	
・予算における県費負担ののび率	・国県市の役割分担を異なる立場の主体が話し合った数		
F16			

<ふりかえりカードから>

○5年後、6年後の指標数値を明記する段階になりました。重圧と責任感にさいなまれています。

○5年後、10年後の目指すべき値を考えることで、指標の設定の難しさを再認識した。

○具体的な数字が入り、アウトラインが見えてきた。いつも3人（時には4人）だけで、北上の産業経済の5年、10年を決めて良いのか悩むところだ。

○数値を決めて振りかえると、より深く考えられた。指標により現実的にならざるをえないものと、理想的に考えて良い点とあるのがおもしろい。

○参考指標（データ）がどういうものなのかわからないままに数値を考えるのは無責任なような気分になりました。備考欄にデータのとり方が記されていればよかったと思いました。

○指標数値の理由付けが難しかった。

○魅力ある職場があると思う割合—現状維持を継続させる
魅力ある職場、商店街をつくり出す—商店の独自の発想が強くのぞまれる

○単純にパーセンテージをアップするのが、果してみんなの幸せになるのかどうかわからない項目があり悩んでいます。

○知見・知識が乏しい中で、あるべき指標の数値を議論するのは非常に難しい。

○現在の数値がないので、目標値が見えないのがつらい！

○自分たちが求めたものと違うデータが多く、水準を作ることができないものもあった。分野内では共有できていたと思うので良かったが、果して他の分野の方たちが理解できるのか？？

○既存数値のないものが多く、指標を深められなかった。次回の検討で落ちるトコに落ちるのでしよう。

○指標の数字が5年後、10年後どうなってほしいか、根拠がわからず（見い出せず）困った。いったん、担当課で見ていただいて、コメントがほしいと感じました。

○しばらくぶりで参加させていただきました。次回も是非参加したいと思っています。